

令和5年度 こども園（保育園）関係者評価

施設評価シート

子育てセンターやまびこ

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価

評価日時： 令和 6 年 2 月 9 日 9:30~11:00

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

自然大好き、友だち大好き、生き生きあそぶ子

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

「たのしい・うれしことがいっぱい ～主体的な遊びを通して育ちあう～」

子どもたちが豊かな自然環境の中で五感を感じ、自分で考え、試せるよう教育、保育を展開していく。そのために、職員は自ら抱えている課題を見出し、実践していく。具体的には、参考文献を読んだり研修に参加したりし、その学びを自己評価シートに記載する。会議の中でその成果を発表することで個人だけでなくチームとしての学びを深めていく。

【評価基準について】

4・・・十分に達成されていた

3・・・ほぼ達成されていた

2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない

1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価	評価理由	最終評価	評価委員から
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	3	<ul style="list-style-type: none"> 年に一度、園内研修にて園長より説明を受けるため、内容の理解はできている。しかし、自分の学びはできているが、「子どもの主体的な遊び」の理解について経験年数や勤務形態により温度差がある。 グランドデザインも園内に掲示されているため、いつでも確認できる。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 利用者満足度調査の結果を見ると、重点目標の取り組みについて、保護者の理解が約8割である。園からの発信もあり、職員、保護者共に浸透している。 計画的に保育がされていると思う。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	3	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じたあそびの提供が不十分であそびがマンネリ化してしまうことがあった。 山で採れた果物や畑で育てた野菜をクッキングに取り入れ、子どもの食への興味を深めることができた。 月間指導計画から週指導計画に落とし込めておらず、計画通りに実践できないところがあった。(飼育、栽培について) 	4	<ul style="list-style-type: none"> 運動会、制作等の参観をして、子どもにあった環境の設定がされていると思った。 子どもの興味は変わっていくことや、玩具の劣化の状態を見ると、玩具の入れ替えをもっとした方がいいと思う。(特にバスル) 年度によって玩具の入れ替えに差があるのも気になる。 指導計画の立案、実践については来年度の課題として取り組んでほしい。
III. 子どもにとっては 1. その子らしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心行くまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る	3	<ul style="list-style-type: none"> 散歩に行き、自然の変化に気付いたり触れたりする経験が来ている。 子どもが主体的に遊べる環境の提供や、地域の方との関わりなど、改善できる部分があると思う。 	4	<ul style="list-style-type: none"> その子らしさを認める保育が大切。保育者は一人一人と向き合っていてほしい。 子ども同士のトラブルに対するとらえ方は、人それぞれ異なるが、その中で許容範囲はどの程度なのか、保護者にも共有してほしい。(危機管理体制) 発達に課題を抱えている子どもへの対応については、保育者のスキルアップが必要。発達段階に応じた保育をすることが望まれる。 やまびこの保育は、その子らしさを大切、保育が行われている。

<p>IV. ファミリーにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気軽に相談できる 2. いつでも保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 保育を通して地域に親しむ 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアなどで、地域との関わりを持つことができている。 ・ブログやホームページ、てんぐるまにて情報発信している。 ・保育参加や懇談会を通して、日頃の保育の様子を伝えたり、家庭からの相談を受けたりしている。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが落ち着いてきて、ボランティアの受け入れが増えている。 ・てんぐるま：園に在籍しているときは、毎度配布されるため目にするが、自治会としては回覧になり、あまり見なくなる。発信という面では弱い。 ・保護者によって相談できる人とできない人がいる。保護者の孤立を減らしてほしい。 ・保育参加や懇談会等にて、育児のヒントや情報を得られている。 ・直接声を上げられない保護者もいる。園の方からの投げかけもあるといいと思う。
<p>V. 地域にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容がよくわかる 3. 緊急の時頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスや児童クラブの併設施設との交流が増えた。 ・ボランティアや実習生の受け入れを積極的に行っている。また、今年度はこちらから高校生へボランティアの依頼も行った。 ・支援ひろばの取り組みとして、地域の保護者の方への支援講座を開き、子育てのフォローをしている。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人からすると、子どもたちの散歩の様子を見て、楽しみにしている人もいる。 ・支援ひろばに来られる人はいろいろなフォロー等を得られているが、来られない人、来てほしいが来ない人も地域にはたくさんいる。そういう人への呼びかけは難しい。 ・デイサービス、地域、高校生との触れ合いが、子どもたちのやる気に繋がり、お互いにいい刺激になっている。
<p>VI. スタッフにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個性が生かされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・報連相を心がけていたが、タイミングよく行えない時もあった。 ・得意分野を生かせるような係の分担が出来ている。 ・園内研修の中で、専門性を高めることが出来ている。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者同士の関係性が大切。大人が悩んでいると子どもは育たない。子どもにとって保育者は母親のような存在である。 ・職員間の風通しのいい環境づくりがあることが、関係性の構築につながる。 ・個性が生かされる：それぞれの得意分野が生かされていることが、子どもを通じて理解できる。